

相次ぐ公式戦中止、部活動自粛...苦難の20年を越えて

コロナ禍での「個」の収穫プラスに

男子バスケット部主将「4年生のために頑張る」
2020年、新型コロナウイルス感染症の流行が世界に脅威をもたらした。江戸川大学の指定強化運動部も例外なく大会中止などの影響を受けた。ただコロナ禍への対応で個別のトレーニングや情報共有など新たなものがあった。選手権が中止、秋季リーグに、最上級生には大きな苦難の20年を越えて



2020年11月、女子バスケット部の青山学院戦、メンバー全員がマスクを着用して練習を補助する。昨年11月、女子バスケット部の青山学院戦、メンバー全員がマスクを着用して練習を補助する。

「何を食べて強くなったか」と原景を聞いてみた。
江戸川大学の指定強化部には、北海道から沖縄まで日本全国から、学生（外国人留学生も）が集まってくる。地方出身者の強かな肉体的な精神の粘り強さのように形づくられたのか。学生アスリートに「何を食べて育ったのか」と原景を聞いてみた。

個性派バレー



20年11月14日の早稲田戦に勝ち喜びを爆発させるバレー部

2020年から江戸川大学女子バレー部の指揮を執る丸山哲平監督は「守りでは通用する部分が多々ある」と強豪チームがそろった関東大学女子リーグ2部の戦いに自信を持つ。目指すは2部定着ではない。2部の常連から1部昇格へ。飛躍のカギを握っている。
「難題」クリアだ
2020年秋のリーグ戦で終えた。部のモットーである「守りを維持し続ける」が守りでは通用する部分が多々ある。強豪チームがそろった関東大学女子リーグ2部の戦いに自信を持つ。目指すは2部定着ではない。2部の常連から1部昇格へ。飛躍のカギを握っている。
攻撃に比重を移せば当然リソースを伴う。「守備力も維持したまま攻撃力も上げる」というのは、ある意味で矛盾している。それは承知の上だ。速い攻撃やコンビプレーのためにピンポイントでトスを上げなければいけない。先走ってそこに意識がいくと、拍子も悪くなる。丸山監督は今年、この課題を「難しい部分ではあるが、チャレンジしていきたい」と決意を口にしている。丸山監督は今年のチームでも、個性が強い子たちが集まっていると評する。自己主張が強いが、一人一人が主役で勝利に貢献するという意識を持つ。

得意の守備に続き2本目の刃で強豪斬り

まとめ役山越主将新戦力に期待「下級生全体に頑張ってもらいたい」
早稲田戦で、強敵なスパイクをレシーブする山越主将

「ハイキュー!!」で部員を例えてみた
部員人気No.1漫画を実写化するなら誰だ？

メンタルは真逆
チームのエースであり、パワーあふれる攻撃に定評のあるスパイカー。同じスパイカーでエースの梶はチームメイトから「パワーが凄い」と称賛されるスパイクを放つ。東峰はメンタルが弱く、ガラスのハートだが、梶は「メンタルは強い方」と中身の違いを誇る。

毒舌まで同じ!?
長身であり、相手選手を分析し、状況判断に優れる冷静沈着なブロック、月島。毒舌発したりするのが得意である。南もチーム屈指の長身であり、ブロックができてブロックが神懸っているという、大人しく見えて意外と毒舌という月島感たっぷりの回答があった。

ムードメーカー
小柄ながら驚異的な身体能力を持ち長身の選手とネット際で争う主人公、日向。底知れないスタミナと、常に元気で明るい性格が特徴である。常には明るく元気に「テンションが上がるとずずと元気が出る」仲間が決められた時など、ムードを上げるためにテンションを上げる」とチームへの思いが強いのも一緒。

サッカークラブ 千葉 二十世紀梨
年間14500本を誇り、作られた品種は幸水、豊水、二十世紀など10種ある。「判断の速さで体格差をカバーする」という持ち味は、みずみずしく切りのいい梨が育ったからか?

バスケット部 須藤雄太
北海道から送られてくるシシトフを食べることが他大学のヒックスマン連と渡り合う原動力になっている。酪農が盛んな北海道の乳製品も大好きで育ったというから、大きくなる要素しかない。

高藤麻央
ケイヨーエス（明豊）は「ケイヨーエス」が大好物。醤油、みりん、酒などが作られたタレに刺身を漬けて、それを丼飯に乗せる食べ方を大分県で呼ぶ。週に2、3回はケイヨーエスを食べていたと振り返る。なんと、名物の佐賀関サバが恋しくなる。

バレー部 鈴木彩霞
静岡アジの干物
バレー部の岡本直子（経営社会4年、青森四国は青森の特産物である、りんごを食べた。幼少期からほぼ毎日食べており、家にはりんごの生産量を誇る。白米のおかずが当たり前のようにならないうが、りんごを食べて、せんべいのように「おやつとして食べている」という。強い体づくりにならなかったのは、言葉でもな。

青森りんご
バレー部の岡本直子（経営社会4年、青森四国は青森の特産物である、りんごを食べた。幼少期からほぼ毎日食べており、家にはりんごの生産量を誇る。白米のおかずが当たり前のようにならないうが、りんごを食べて、せんべいのように「おやつとして食べている」という。強い体づくりにならなかったのは、言葉でもな。

早稲田戦でスパイクを放つ梶